

令和2年度 学校評価書

四万十市立大用中学校
 学校長 武田 博文

1. 学校教育目標

自ら学び意欲を持ち、心豊かでたくましい生徒の育成

2. 本校の現状

男子生徒8名、女子生徒7名の全校生徒15名、教職員は11名の小規模校である。
 全学年とも落ち着いて学習に取り組み、家庭学習の習慣もついている。全体的に検定等への関心は高く「英語・数学・漢字」検定への取り組みや教科指導の中で「キャリア」の視点を意識することで、日々の学習の意義と「主体的・積極的」に自分の将来に向けて努力する心情を醸成することができると思う。
 本年度は上記の達成と引き続き不登校生徒を出さないことも意識しつつ、小規模校の特性を活かした生徒一人一人に寄り添う指導に取り組む。

3. 本年度の評価項目

- [1]学力向上
- ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
 - ②子どもにわかる授業づくり
 - ③予習・復習の質と量を高める取組
 - ④検定(英語検定・漢字検定・数学検定)への参加
- [2]生徒指導
- ①いじめの防止等のための取組
 - ②不登校(傾向)対応の予防と支援
 - ③将来の展望や目標を持った生徒の育成
- [3]学校・家庭・地域の連携・協働
- ①小中の円滑な接続の推進
 - ②みんなであいさつ運動(市独自)
 - ③地域と連携した体験学習の推進(地域の人材活用)
- [4]働き方改革(業務改善)
- ①勤務時間の適正管理に関するガイドラインに則した勤務の実施
 - ②効率的な勤務体制による、長期休業中の休暇取得の推進

4. 自己評価

| 評価項目 | | 評価指標 | 取組状況・成果 | 評定 | 次年度の方策 |
|------------------|---------------------------|---|--|----|--|
| 大 | 中 | | | | |
| 学 力 向 上 | ①学力向上のための組織的な研修等の取組 | ○年間9回の研究授業の実施 ※「見方・考え方」を意識した授業 | ○予定どおり実施(年間9回)。全員が授業づくりを意識できる取り組みになっている。 ○他教科の『見方・考え方』が参考になった | 4 | ・学習課題に対して「どこに着目するか」「どんなこと(もの)を活用して解決するか」を中心とした授業研究 ・「これまでに学習した内容(既習事項)」および「自分の思考」を活かした授業形態の実施。 ・『授業チェックシート』の見直し ・単純な作業的な家庭学習だけでなく、自分で思考し表現をする内容の課題提示 ・『キャリア学習』の視点から、検定資格取得に挑戦する意義のアピール |
| | ②子どもにわかる授業づくり | ○「自分の考えを表現できる」「考えを広げることができる」の肯定的評価80%以上 ※『授業チェックシート』 | ○『授業チェックシート』では肯定的評価100% ○自分の考えを表現させ、人又聞くことで、考えを広げるための授業展開につながった | 4 | |
| | ③予習・復習の質と量を高める取組 | ○帯学習等と関連付けられた家庭学習内容の提示 ※『提出率』と『家庭学習時間90分以上』が90%以上 | ▲時間(90分)については、完全に達成できていない(70%) ▲予習をさせる働きかけに課題がある | 2 | |
| | ④検定(『英語検定・漢字検定・数学検定』)への参加 | ○『英語検定・漢字検定・数学検定』のいずれか受験率60%以上 | ○英語検定以外の検定に目を向ける機会となっている。評価指標は達成。 ▲数学検定・英語検定への受験者が(漢字11名、数学5名、英語5名)が少ない | 3 | |

| | | | | | | |
|-----------------------|-------------------------------|---|---|---|---|--|
| 〔2〕 生徒指導 | ①いじめの防止等のための取組 | ○『生徒理解カルテ』による情報共有 ※校内研、職員会における生徒情報交換の機会の確保100% | ○校内研・職員会毎の情報共有（100%確保）は出来ている。 ▲『生徒理解カルテ』への記録がやや不十分。 | 3 | 3 | ・引き続き教職員間での情報共有の機会確保 ・『生徒理解カルテ』の取り組みの充実 |
| | ②不登校（傾向）対応の予防と支援 | ○不登校および不登校傾向の生徒がいない（0人） | ○教職員間の情報共有と保護者との連携で、現状では深刻な状況には至っていない。 | 3 | | ・教職員、保護者、関係機関との連携および、『不登校理解』の校内研修の実施 |
| | ③将来の展望や目標を持った生徒の育成 | ○『学校生評価』で「目標を持った学校生活」の肯定的評価が80%以上 | 保護者 肯定的評価 83% (そう思う25%、ややそう思う58%) 生徒 肯定的評価 93% (そう思う80%、ややそう思う13%) ▲課題としては、肯定的評価の中の「そう思う」の数値が低い | 3 | | ・『キャリア教育』の視点を取り入れた学習活動（全教科）。 |
| 〔3〕 学校・家庭・地域の連携・協働 | ①小中の円滑な接続の推進 | ○年間6回以上の、『小中合同職員会・校内研』の実施による9年間の学習内容の共有 | ○合同職員会・校内研はほぼ予定どおり実施。小中の学習内容の共有には効果があった ▲9年間の学習内容の共有には至っていない | 3 | 3 | ・1年生を中心とした小中での情報共有の継続。 ・教科を絞った9年間の学習内容の共有を考える（人権学習） |
| | ②みんなであいさつ運動 | ○小中合同あいさつ運動の実施（毎月10日） | ○定期的な取り組み（『あいさつ運動』）は出来た ▲取り組みの中で小中の交流が仕組みなかった | 3 | | ・小中で連携した『挨拶運動』の取り組みを考える。 |
| | ③地域と連携した体験学習の推進（地域の人材活用） | ○「教科」および「地域交流学習」における、地域人材による学習支援の活用 | ○『地域交流学習』等で、自分たちの故郷の良さを実感できる、大用中ならではの学習ができた。 ※本年度は『コロナ禍』もあり、中止された交流もあった | 4 | | ・富山地区と市内の他地域との関係など、外向けに視野を広げた地域学習への発展を図る。 |
| 〔4〕 働き方改革（業務改善） | ①勤務時間の適正管理に関するガイドラインに則した勤務の実施 | ○上限内の達成率において年間（360時間）100% 月（60時間）80% | ○通常の勤務に関しては、ほぼ達成できている。 ▲部活動担当者については、担当者間の分担により工夫には努めたが、上限時間達成は困難 | 3 | 2 | ・部活動指導も含めた全体的な校務分掌の見直し ・年間を通した、学校全体での部活支援体制の構築 |
| | ②効率的な勤務体制による、長期休業中の休暇取得の推進 | ○長期休業（夏・冬・春）中に5日以上以上の休暇取得 ※学校閉庁日を除く | ▲本年度は夏季・冬季休業の短縮の関係もあり、十分達成できていない | 2 | | ・引き続き、長期休業中を中心とした休暇取得の推進 |
| 〔5〕 | | | | | | |
| | | | | | | |

4段階評価（4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する）

5. 学校関係者評価

| |
|---|
| <p>○学校・家庭の情報交換・連携は、とれていると思う。</p> <p>○地域との交流は良く出来ている。地域人材を活用した教育が充実している。</p> <p>○満たされた環境の中で生活や学習が出来ている。</p> <p>○授業改善に努めている。</p> <p>▲家庭学習の課題を内容の濃いものにすればいいと思う。</p> <p>▲教職員のみなさんの繁忙さは自分達にも通ずるのものが、やり残した仕事や反省はたくさんある。</p> |
|---|